

②堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

- a. 清流ルネッサンスⅡ計画 [近畿地方整備局、大阪府、奈良県] (流入負荷の削減)
- b. ミニ人工干潟 [大阪府] (実験用干潟)
- c. 内川・土居川での水質改善事業 [堺市] (水質浄化、底質改善等)
- d. 堺泉北港堺第2区人工干潟 [大阪府] (干潟整備)
- e. 堺第2区 (堺浜) 海とのふれあい広場 [堺市] (緑地整備)

また、次年度以降も、これらの改善効果が早期に発現するよう、上記の取り組みを継続するとともに、新たに、堺第2区先端において基幹的広域防災拠点緑地の整備に着手する予定です。



2. 目標の達成状況

平成19年度時点における「大阪湾再生行動計画」の具体的な目標の達成状況は次のとおりです。

「(1)海域生物の生息に重要な場を再生する」～「(3)臨海部での人々の憩いの場を確保する」における各年度の数量は『整備完了』したものの数量であり、この他にも整備が進められています。

(1) 海域生物の生息に重要な場を再生する

干潟、砂浜については、現在、整備中である。

藻場については、行動計画期間内の計画数量（25.2ha：須磨沖、阪南市・岬町地先）のうち、合計で17.2ha（進捗率約68%）は既に整備され、海藻の活着を確認したほか、メバル、カサゴ等の保護・育成が図られている。

浅場については、行動計画期間内の計画数量（約2.4ha：神戸空港、御前浜）が既に整備され、活用されている。

① 干潟

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha
計 画	約13.7 ha				参考) 行動計画策定時の目標：約10ha

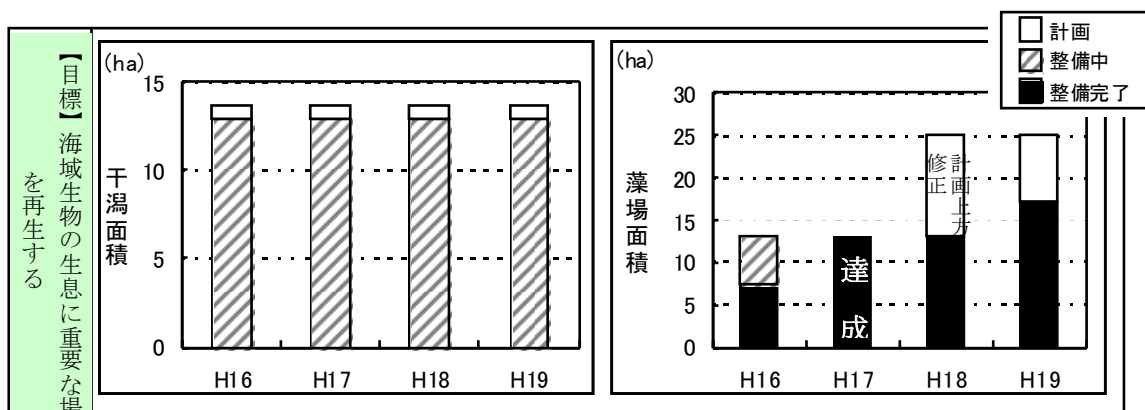
注) 行動計画策定時（H16.3月末）の大阪湾全体の干潟面積は15haである。

参考) 現在進行中の整備状況 堺泉北港堺第2区人工干潟（堺第2区／大阪府）
先端緑地整備等（泉北6区／大阪府）

② 藻場

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計
整備完了 (整備中は除く)	7.4 ha	5.8 ha	0 ha	4 ha	17.2 ha
計 画	約25.2 ha				参考) 行動計画策定時には具体的計画なし

参考) 現在進行中の整備状況 増養殖場造成事業（田尻町地先／大阪府）



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

③ 浅場

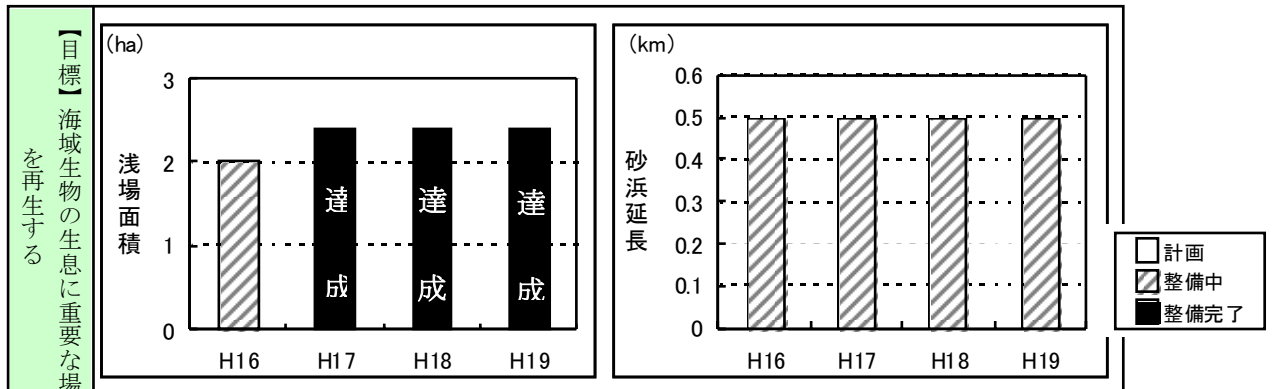
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	2.4 ha	0 ha	0 ha	2.4 ha
計 画	約 2.4 ha 参考) 行動計画策定時の計画：約 2 ha				

【計画達成】

④ 砂浜

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km
計 画	約 0.5 km 参考) 行動計画策定時の計画：約 0.5 km				

参考) 現在進行中の整備状況 干潟、海浜、磯場の整備 (舞洲、夢洲/大阪市)



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

(2) 人々が快適に触れ合える場を再生する

自然的な海岸線については、行動計画期間内の計画数量（約 5.0km：ポートアイランド、堺旧港、尼崎臨海部、堺第2区、福島海岸）のうち、全体で約 1.9km（進捗率約 38%）が完成した。整備が完了したものについては供用され、その他については整備が続けられている。

整備が完了したのは、堺旧港における親水護岸であり、臨海部における貴重な人と海との触れ合いの場となっている。また、尼崎臨海部においても遊歩道等の親水的海岸線が一部で完成し供用されている。

【自然的な海岸線延長】

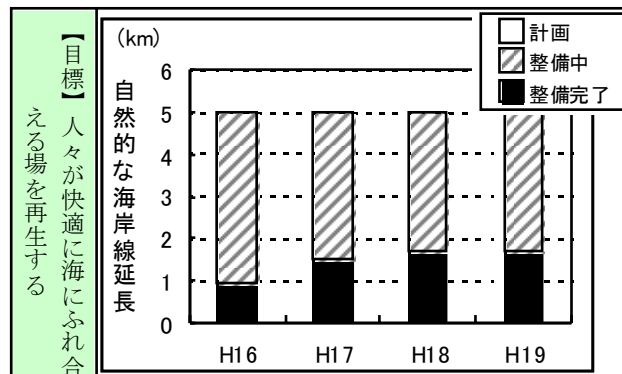
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	1.0 km	0.5 km	0.2 km	0.2 km	1.9 km
計 画	約 5.0 km 参考) 行動計画策定時の計画：約 3.7 km				

参考) 今年度の整備状況 海岸環境整備事業（尼崎／兵庫県）

現在進行中の整備状況 西緑地造成（ポートアイランド／神戸市）

親水護岸整備（堺旧港／大阪府）

海岸整備（福島地区／大阪府）



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

(3) 臨海部での人々の憩いの場を確保する

臨海部における海に面した緑地については、行動計画策定時の計画数量(約 98.4ha)のうち、全体で約 23.9ha(進捗率:約 24%)が完成し、供用されている。その他については全て整備が続けられている。

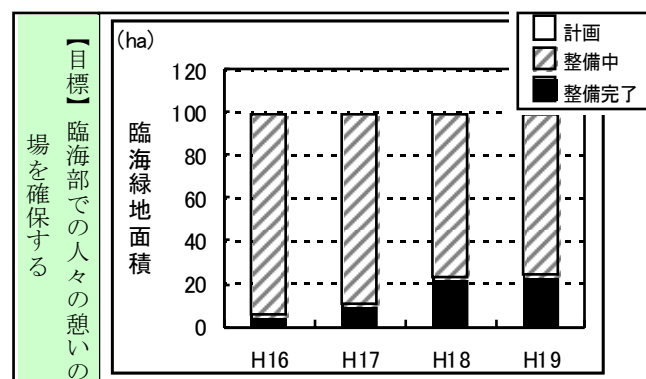
整備が完了したのは、堺第 2 区における親水緑地であり、既に供用されている。

【臨海緑地】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	5.68 ha	4.55 ha	13.2 ha	0.5 ha	23.93 ha
計 画	約 98.4 ha 参考) 行動計画策定時の計画: 88.7 ha				

参考) 今年度の整備状況 府営公園の整備及び管理(二色の浜公園、りんくう公園、せんなん里海公園/大阪府)

現在進行中の整備状況 人工ラグーン等の整備(神戸空港/神戸市)
 尼崎臨海地域の緑化(尼崎 21 世紀の森)(尼崎/兵庫県)
 共生の森事業(堺第 7-3 区/大阪府)
 先端緑地整備等(泉北 6 区/大阪府)
 ふれあい漁港漁村整備事業(深日漁港、小島漁港/大阪府)



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

(4) ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

河川、海岸、海上でごみ回収活動が毎年着実に実施されている。

河川ごみ、海岸漂着ごみについては、地域住民、ボランティア団体等との協働による回収活動が行われている。

浮遊ごみは海洋環境整備船、海底ごみは漁業者との協働による漁船での回収活動が継続的に実施されている。

【行政による取り組み】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
浮遊ごみ	1013.7 t	213.2 t	724.8 t	285.0 t
漂着ごみ	48.9 t	48.0 t	—	—
海底ごみ	430.8 t	441.0 t	20.1 t	20.1 t
河川ごみ	—	109.8 t	195.4 t	107.2 t
計	1493.4 t	812.0 t	925.4 t	412.3 t

注) 1. 浮遊ごみ回収量が平成 16 年度に非常に多かったのは台風の影響によるものと考えられます。

2. 河川ごみは 6、7 月分の集計です。

【市民参画による取り組み】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
漂着ごみ	892.2 t	804.1 t	899.7 t	629.8 t
海底ごみ	—	—	—	16.0 t
河川ごみ	37.2 t	25.6 t	39.1 t	31.4 t
計	929.4 t	829.7 t	938.8 t	677.2 t

注) 漂着ごみは、一部、河川での回収分も含む。

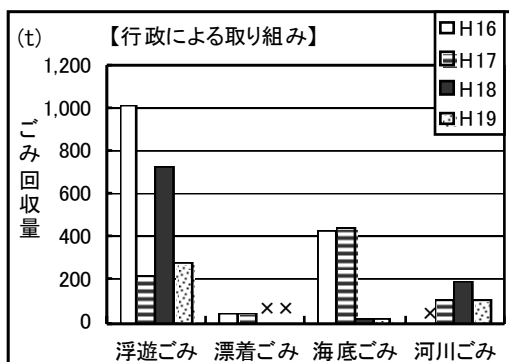
河川ごみは 6、7 月の活動の集計です。

参考) 参加状況 平成 17 年度：のべ 36,202 人

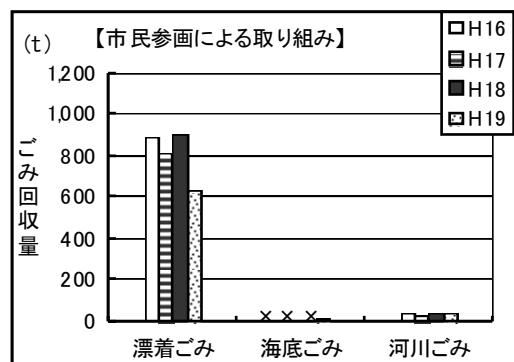
平成 18 年度：のべ 29,820 人

平成 19 年度：のべ 25,528 人

【目標】
ごみのない美しい海岸線・海域を確保する



※：平成16年度は行政による河川ごみ回収状況を把握していない。



※1. 漂着ごみは、一部、河川での回収分も含む。
2. 海底ごみは平成16～18年度には回収されていない。

3. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 19 年度の主な取り組み事例）

3-1 市民参画による各種の取り組み

(1)兵庫運河 真珠貝プロジェクト

- 「真珠のまち神戸」における市民による水質保全活動として、「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」が、アコヤ貝の育成活動を通じた環境学習に積極的に取り組んでいます。

【場所】兵庫運河浜山レガッタコース

【主体】兵庫運河 真珠貝プロジェクト（後援：神戸市、技術協力：(株)大月真珠・日本真珠輸出組合）

【取り組み状況】

- ・ 6月30日：アコヤ貝移植式を開催、アコヤ貝 250 個を移植。
- ・ 7月～12月：会員の親子で当番を決めて、アコヤ貝についての海の生き物や泥を掃除したり、水温や水質の測定をするなどの活動を実施
- ・ 12月9日：浜揚げ式の開催、111 個の真珠が採り出された。
- ・ 1月19日：とれた真珠を使って会員がオリジナルアクセサリーを製作。



アコヤ貝の掃除



取り出された真珠



取り出された真珠でつくったアクセサリー



(2)「大阪湾（生き物）一斉調査」プログラムの試行

●大学、市民団体、国および地方公共団体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」において、大阪湾の水環境モニタリングと市民参加の促進に資する取り組みとして「大阪湾（生き物）一斉調査」を計画しており、このプログラムの作成を目的に大阪市西淀川区の矢倉海岸において沿岸生物の専門家、市民団体の代表者および周辺住民の方の参加協力を得て現地調査の試行を行いました。

【場所】 矢倉海岸（神崎川河口）

【主体】 大阪湾環境再生連絡会（事務局：近畿地方整備局）

【取り組み状況】

実施日：11月3日（土）（40名参加）



【調査結果】

- ◆フジツボ：タテジマフジツボ、ドロフジツボ等、4種類
- ◆貝：コウロエンカワヒバリ、ウヅラタマキビ等、34種類
- ◆カニ：ケフサイソガニ、タイワンガザミ等、5種類
- ◆その他：魚6種類、エビ2種類、アメフラシ1種類、ヤドカリ1種類、イソギンチャク1種類

大阪湾一斉調査（生物調査） 調査シート

【調査の概要】
 ○本調査は指導員が予め定めた範囲で行います。（指導員から指示があります。）
 ○調査範囲において、「フジツボ」「貝」「カニ」「亀」の種類別、「亀」の各標本生物を採取します。
 ○「フジツボ」「貝」については、密に付着する指標生物を探し、観察できた指標について調査票に「○」を付けるとともに、観察場所における個体数を測定します。（ただし、砂浜・干潟においては1m四方（約的）アサリの個体数を測定します。）
 ○「カニ」「亀」の種類別「亀」については、指標生物を探し、観察できた指標について調査票に「○」を付けます。
 ○指標生物以外に観察できた生物の名称を調査票に記載します。
 ○観察場所として、調査範囲の種類（砂浜、泥、干潟）、調査範囲（橋、歩行道）、干潟時刻と水位、河川の流入の有無、海岸背後の様子を調査票に記載します。
 ○その他、調査の方法などについては指導員の指示に従ってください。

どんなフジツボが見つかるかな？

調査の他に様々なフジツボが付着しています。この中でも、クロフジツボは水の浅い（干潟）に、主にシロスジフジツボ、タテジマフジツボは水の浅い（干潟）に生息しています。
 どんなフジツボが生息しているかを調べてみましょう。
 【調査の方法】
 ○まずフジツボが付着している岩を探します。
 ○岩を見つけたらその種類のフジツボが付着しているかを確認します。
 ○50cm四方の枠を当てて、各種別のフジツボの数を数えます。

<p>アカフジツボ（殻径3.0cm、殻高2.0cm）</p> <p>岩の表面にしっかりとくっつき、殻の縁が鋭く尖っています。タテジマフジツボと比べて、殻縁が鋭く尖っています。</p> 	<p>タテジマフジツボ（殻径2.0cm）</p> <p>カニの巣（カニの巣）や亀の巣（亀の巣）など、狭い範囲にのみ生息しています。観察時の殻縁が鋭く尖っています。</p> 	<p>シロスジフジツボ（殻径1.0~2.0cm）</p> <p>内側の殻縁の厚さが薄く、殻縁が鋭く尖っています。内側の殻縁の厚さが薄く、殻縁が鋭く尖っています。</p> 
<p>ドロフジツボ（殻径1.5~2.0cm）</p> <p>内側の殻縁の厚さが薄く、殻縁が鋭く尖っています。タテジマフジツボと比べて、殻縁が鋭く尖っています。</p> 	<p>アメリカフジツボ（殻径1.0~3.0cm）</p> <p>内側の殻縁の厚さが薄く、殻縁が鋭く尖っています。観察時の殻縁が鋭く尖っています。</p> 	<p>ヨーロップフジツボ（殻径1.0~2.0cm）</p> <p>内側の殻縁の厚さが薄く、殻縁が鋭く尖っています。観察時の殻縁が鋭く尖っています。</p> 

生物調査記録用紙

調査日時				調査時刻		調査温度	
調査地点	平成	年	月	日	開始	終了	(気温: °C)
					時~	時	
参加人数	人			河川の流入	有・無		
調査の種類	砂浜	泥	干潟	海岸背後の	山林	道路	田畑
調査範囲	橋	m	歩行道	m	様子	その他	()

指標生物		チェック	個体数	指標生物		チェック	個体数
フジツボ（種・岩種）				カニ			
クロフジツボ				アカガザミ			—
アカフジツボ				ヒラソガザミ			—
タテジマフジツボ				ケフサイソガニ			—
シロスジフジツボ				イソガニ			—
ヨーロップフジツボ				チチュウカイミドリガニ			—
アメリカフジツボ				ヤマトオサガニ			—
貝（種・干潟）				ハワセンシヨマナキ			—
アサリ				アンハラガニ			—
貝（種・岩種）				オウゴン			—
ケガキ				スナガニ			—
マガキ				【指標生物以外に観察された生き物】			
ムラサキガイ							
ミドリイガイ							
コロンガフヒバリ							
イガイダマシ							
セイウイホリガイ							
ウネナシトマヤガイ							
マルウスラタマキビ							
海綿（種・岩種）							
アナオサ			—				
スジアオノリ			—				
ヒトエグサ			—				
動物（砂浜）							
ハマヒルガオ			—				
ハマダイコン			—				
ハマゴウ			—				
コウボムギ			—				
オカヒジキ			—				
ハマボウフウ			—				
ハマウド			—				

調査シート

(3)大阪湾内の海洋生物調査

●大阪湾におけるスナメリ(小型の鯨類)の生息状況を調査しました。

【海域】大阪湾北部および東部海域

【主体】大阪コミュニケーションアート専門学校（協働者：近畿地方整備局）

【取り組み状況】

瀬戸内海の中でスナメリの生息状況（分布・生息数とそれらの季節性）が未解明である大阪湾において、大阪コミュニケーションアート専門学校が平成17年度より同種の生息調査を開始しており、今までの調査結果から関西国際空港の周辺海域で春～夏に多く出現することを確認している。今年度は主に神戸港～尼崎西宮芦屋港沖の北部港湾域から関西国際空港周辺にかけての生息状況を協働で調査した。

今年度の調査の実施状況は次のとおりである。

- ・調査方法：船舶からの目視観察などによりスナメリの生息状況（分布範囲、生息数、それらの季節性）を明らかにする。
- ・調査日：7月26日、8月22日、9月10日、12月19日、1月22日、3月27日(予定)



スナメリの観察状況

(4) 市民、小学生による水質調査の実施（夏休みジュニア水質調査の日）

●産官学連携による大阪湾再生水質一斉調査と市民団体との連携による調査の実施

【取り組み状況】

①夏休みジュニア水質調査の日

実施日：平成 19 年 8 月 5 日（日）

実施場所：大阪南港魚つり園

参加者数：8 組 16 人

主催：NPO 法人釣り文化協会

内容：小学生が親子で“公認釣りインストラクター”の指導のもと、水質調査を実施

②市民による水質調査（平成 19 年 8 月 2 日～8 月 6 日）

内容：釣り人、一般市民（調査員 計 93 人）による釣り場を中心とした大阪湾沿岸域における定期水質調査 [主体：NPO 法人釣り文化協会]



市民による水質調査の実施風景



(5) 舞洲における環境学習と魚つりの社会実験

●大阪湾の自然環境保持の大切さを学び、さらには魚つりのマナーの向上を目的として開催しました。

【場所】 舞洲緑地 シーサイドプロムナード東側

【主催】 社団法人全日本釣り団体協議会、財団法人日本釣振興会大阪府支部、NPO 法人釣り文化協会

【共催】 大阪市港湾局

【取り組み状況】

内容：大阪港の水質に関する講習会と魚つりを通じた魚類の棲息調査及び会場周辺の共同清掃を行った。両日で200名参加。

開催日：平成19年9月23日（日）、平成19年10月14日（日）



舞洲における環境学習と魚つりの社会実験の実施風景

(6) 海辺の漂着物調査

- 漂着物を調査することによって、海辺の汚れ具合を把握して行政施策に反映することと、調査への参加を通して、ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育てます。

【日時】平成19年9月

【場所】甲子園浜

【主催】NPO 法人海浜の自然環境を守る会

【内容】波打ち際から陸地方向へ連続的に縦横10mの区画を3区画設定し、漂着物を区画ごとに採集、分類、計量、集計します。平成17年度から定点観察をしています。



清掃活動



ごみの分類作業

(7) “クリーンアップ大作戦”スペシャル in 舞洲

- 舞洲緑道人工磯の清掃活動や舞洲の環境関連施設での見学等により、海辺の自然に対する関心を高める活動を行いました。

【日時】平成19年11月11日（日）

【場所】舞洲緑道（人工磯）

【主催】此花区まちづくり会議

【内容】此花区の地域清掃活動のスペシャル版として実施。参加人数1,000名、ごみ回収量約5.5トン。



“クリーンアップ大作戦”スペシャルによる清掃活動の実施風景

(8) 市民主導による御前浜での浜辺を美しくする取り組みの実施

●御前浜・香櫨園浜プロジェクトの一環として、市民主導で浜辺の草刈り、ごみ回収を実施しました。

①砂浜再生実験

【開催日】平成20年1月26日（土）

【場所】御前浜・香櫨園浜

【主催】地元自治会、プロジェクト参加者、兵庫県阪神南県民局

【取り組み状況】

- ・砂浜景観の再生へ向け、行政と地域住民との協働で実験を実施するとともに、実験の効果を観察するためのモニタリングを実施

草の掘り起こし実験：砂浜の草地化が問題なため、草を掘り起こした後の生える経過を観察
 砂の押し出し移動実験：波打ち際の草を取り除き、砂を海側へ押し出して、なだらかな砂浜とすることで潮風のあたる面積を拡大

②浜辺の草刈り

【開催日】平成19年9月23日（日）

【場所】御前浜・香櫨園浜

【主催】地元自治会、プロジェクト参加者、西宮市、兵庫県阪神南県民局

【取り組み状況】

- ・浜辺の草刈りを実施し、ゴミ袋150個分もの草とゴミを回収（約70人参加）

③その他

- ・毎月第一土曜日にビーチクリーニングを実施（浜脇校区子供会連絡協議会）
- ・毎朝なぎさ際のごみ拾い（香櫨園浜を美しくする会）



砂浜再生実験の様子



浜辺の草刈りの様子

刈られた草とゴミ

(9) 南港生き物育て隊アオサ取り

●野鳥が利用し、多様な生きものが生息できる湿地（干潟など）を保全するため、大量に発生するアオサ藻類の除去作業「アオサ取り」を、行政や NGO・NPO 法人と市民・企業が協力して実施しました。「アオサ取り」という体験を通して、生き物豊かな湿地の存在や海と湿地の重要性について知る機会としました。

【場所】 大阪南港野鳥園

【主催】 NPO 法人南港ウェットランドグループ、大阪市港湾局

【取り組み状況】

開催日：毎年 6～7 月に 3・4 回実施

平成 19 年 6 月 17 日（日）、6 月 30 日（土）、7 月 1 日（日）、7 月 29 日（日）



大阪南港野鳥園でのアオサ取りの様子



(10) エコアートフェスタ大阪

●大阪市の、創造都市づくりの一環として、創造的人材の育成と、環境意識の啓発を目的として開催しました。

【開催日】平成19年11月3日（土・祝）～11日（日）

【場所】天保山ハーバービレッジ イベント広場（海遊館前）

【主催】エコアートフェスタ大阪実行委員会（事務局：大阪市港湾局）

【取り組み状況】

- ・大阪港内のごみやペットボトルを素材にしたオブジェのコンテストやエコツアーを開催。



大阪港内のごみやペットボトルを素材にしたオブジェ等



(11) 阪南港ちきりアイランド（阪南2区）人工干潟とクリーンセンター見学

● 物流機能の整備、地域産業振興、環境改善のための用地整備が進む「阪南2区」において、本年度より稼働した岸和田市貝塚市クリーンセンターや海域の環境創造を目指して整備が進んでいる人工干潟の見学会を行い、港湾の取組を体験して頂きました。

【場所】 阪南2区人工干潟、岸和田市貝塚市クリーンセンター

【主体】 阪南港港湾振興連絡協議会、ちきりアイランド（阪南2区）まちづくり会、大阪府、岸和田市、貝塚市、忠岡町、（財）大阪府都市整備推進センター

【取り組み状況】

- ・ 都市臨海部に、みんなが親しめる干潟の再生を実験中の人工干潟及び本年4月に稼働したばかりの岸和田市貝塚市クリーンセンターの見学を実施
- ・ 実施日：平成19年11月21日（水）、平成19年11月30日（金）



阪南2区人工干潟



岸和田市貝塚市クリーンセンター全景



見学会の様子